



◆一般投稿作品◆

広報委員会 選

去年の種こぼれて庭に菊の花 有澤 春江
 実千両守るや子連れの陶狸 岡本 朴舟
 しぐれ坂ひ孫を背負い老の来る 小原 景守
 袖子の香や老の喜ぶすし握る 小原 子川
 精米の機械の修理年の瀬に 小野寺朱実
 何処より木の葉舞い来し朝の庭 北村千鶴子
 賀状くる皆んな安泰見直して 高野 和一
 枇杷の花盛りなりしを誰も言はず 千頭 野草
 搗きたての娘の抱いてくる鏡餅 西尾 玉喜
 生姜掘る親子の絆今日かぎり 福留とものり
 古希迎え第九歌って新たななり 三谷 誠郎
 節分や祖母の長寿を祝ひあふ 山崎 貴子
 小春日や窓べにかざす針の耳 山崎 寿美

◆かがみ野俳句会◆

逆しまの山揺るがせて鴛鴦二つ 佐竹 洋子
 竜の玉老の目に手に触れにけり 鍵山 和枝
 棚田染む銀杏黄葉に旭を集め 佐藤 幸
 一窓に絵画の如き石路の花 利根 弘子
 生涯を専業主婦やねぎ刻む 古川 信子
 これからは一人の暮し日記買ふ 小松 愛子
 落葉掃きたった一つの我が仕事 西内 保衛
 実南天峡の豆腐の堅づくり 中澤 美晴
 冬苺含めば昔のあまい味 森本 健代

眼裏に残る紅葉の旅日記
山茶花散る一片ごとの安らぎに

山崎 鈴子
吉田 芳

◆菫句会◆

冬日照るダム遡る浚渫船 公文 春紀
 柚子熟れて戻る賑はひ過疎の里 岡本かほる
 山彦の越えゆく先の紅葉かな 高橋 章
 退屈な峡の狛犬七五三 北村 幸子
 鉄塔の連なる山や冬紅葉 西川 常夫
 この黄落天狗風かや打たれ立つ 甲藤 卓雄
 瓢の実や遠き空より鳶の笛 野崎 典子
 味噌売に声かけらるる草紅葉 北村 里子
 新道にカフェが開店初時雨 竹内 ろ草

公文 春紀
岡本かほる
高橋 章
北村 幸子
西川 常夫
甲藤 卓雄
野崎 典子
北村 里子
竹内 ろ草

◆かほく俳句会◆

来し方を刻むがごとく冬田打つ 乾 真紀子
 柚子入の鯖鮓を褒め山誉める 奥宮さとみ
 銀杏散る心の糸をほぐすごと 久保内鏡子
 伸ばす手に触れず綿虫消えにけり 久保 貴女
 限界の邑に踏ん張る冬の虹 黒岩 幸女
 紅の花を見てある十二月 黒岩千英子
 新聞を開けば吊し柿の影 小松 隆之
 大根を切る音響く隣家かな 小松 完
 お通夜の末席にある隙間風 小松 昇
 寝嵩なき母の傍へに時雨聞く 杉山 春萌
 無花果の葉のしまりなき黄落期 西本 昶猪
 千の風吹き抜けてゆく師走かな 前田 欣一
 流れ星被きて手足冷えにけり 前田 秀女
 歩いてふ地味な運動石路日和 間崎 和代
 山住みや冬の星座のすぐそこに 森本 之子
 朝夕に掃く参道の落葉かな 山崎かずみ

乾 真紀子
奥宮さとみ
久保内鏡子
久保 貴女
黒岩 幸女
黒岩千英子
小松 隆之
小松 完
小松 昇
杉山 春萌
西本 昶猪
前田 欣一
前田 秀女
間崎 和代
森本 之子
山崎かずみ

貸借の結片づきし晦日蕎麦 山中 晶子
負けぬ気の嫁今朝も来て柚子を採る 山中 瑞輝
在りし日の父母の温もり石路の花 山中 明石

◆土佐山田町俳句会◆

祥月の妣と甘酒酌み交はす 明石 蕪生
 鐘の音に癒さる里や寒夕焼け 大石 邦男
 なりゆきにまかせて生きよと木守柿 中沢としみ
 ストーブにかじりつくなど猫に告げ 前田 隆明
 冬満月こんな近くに夫いる 前田美智子
 嫁取りの話途絶えて冬至粥 安丸 楨子
 第九より賛美歌が好き十二月 橋本 昭和
 綿虫の浮遊の先の墓石群 田村 一翠
 記憶のはじめに戦争があり 狐火も 樫谷 雅道
 標を真つ直ぐ活けて正座する 馬場 英男
 喪の帯のぐるぐるどぐる冬豊 前田 小夜

俳句・短歌の投稿方法

▼投稿方法は自由。(ただし、ハガキで投稿の場合、一人一枚のハガキで五句(首)以内)
 ▼かい書で、住所、氏名、電話番号を必ず明記してください。
 ▼誌面の都合により掲載されない場合があります。

【投稿先】

企画課内広報委員会事務局「俳句・短歌」係
 〒782-8501 香美市土佐山田町宝町1-2-1
 (☎ 53-3114 FAX 53-5958)